

【 協 議 事 項 】

最重点施策の進捗状況について

- 1 住民参加型の介護予防施策の推進について
・・・・・・・・・・ 1 頁
- 2 認知症高齢者対策の推進について
・・・・・・・・・・ 4 頁
- 3 高齢者権利擁護対策の推進について
・・・・・・・・・・ 12 頁

1 住民参加型の介護予防施策の推進について

(シルバーリハビリ体操について)

(1) 事業概要

① 体操プログラムの作成

・介護予防及び運動機能の維持・向上を目的とし、医学的な理論に基づいて考案された、茨城県が実施する「シルバーリハビリ体操」及び喜多方市が実施する「太極拳を取り入れた運動」等を組み入れた運動プログラムである、福島県が推進する「介護予防運動プログラム」を参考に、本市としての体操プログラムを作成する。

② 体操指導士の養成

・当面、茨城県立健康プラザが実施する養成講座へ人材を派遣し、指導士の養成を行う。また、指導士は、福島県が推進する「介護予防運動プログラム」についても習得する。

・さらに、福島県地域リハビリテーションいわき広域支援センターの協力体制を整え、平成23年度以降、本市独自の指導士養成講座を行う。

・養成する人材は、公募等によって選出するが、広く市民や介護保険事業所等から募集することとし、地域によって、指導士の過不足が生じないように配慮する。

③ 養成された体操指導士の活動支援

・体操参加者の募集及び会場の確保

・体操指導士会的な組織を設置した上での体操指導士間の連携、スキルアップ等の支援

④ 事業効果の検証

・筋力の維持・増加、関節可動域の拡大、日常生活動作の改善などの点について、事業効果の検証方法を検討する。

(2) これまでの取組み

① 指導士養成について

・今後の事業展開において、体操のインストラクターとしての役割を担う常勤職員1名と、その補助業務を担う非常勤職員1名を採用し、茨城県が実施する「シルバーリハビリ体操指導士3級養成講習会」に派遣している。

・講習会は計8回のコースとなっており、講義（解剖運動学、加齢と運動器の障害、食生活と栄養など）と実技（シルバーリハビリ体操）で構成されている。その内容は、本市における事業の普及・指導士の養成に非常に参考となるものである。

・また、当該職員を、市が実施している介護予防事業（転倒・骨折予防事業、健康運動教室など）にも参加させ、高齢者に対する体操指導に関する知識の習得に努めている。

(3) 今後の取組み

① 運動プログラムの作成について

・茨城県と福島県のプログラムを参考に、本市独自の運動プログラムを作成する。

・今年度については、シルバーリハビリ体操における基本体操部分（椅子に座っての体操及び床に座っての体操）を掲載した市民配付用パンフレットを作成する。

② 体操指導士の養成

・平成 22 年度については、市民ボランティアとして活動していただく 6 名を養成する予定。

③ モデル事業の実施について

・モデル事業として、いきいきデイクラブ、地域包括支援センターによるサロン活動などの既存事業の中で、養成した体操指導士による体操講座を開催し、事業内容の検証を行っていく。

④ 事業展開に当たっての留意事項

・平成 22 年度からの本格的な体操普及と、平成 23 年度からの本市独自の指導士養成講座開催に向けて、茨城県健康プラザ、福島県地域リハビリテーションいわき広域支援センターをはじめとする各関係機関との協議を随時実施していく。

2 認知症高齢者対策の推進について

(1) 認知症予防講演会について

① 事業概要

認知症予防に関する知識の普及啓発を目的とし、市民向けの講演会を開催した。

② 講演会内容

講演会「認知症がわかる！～自分らしくあるために～」

- ・開催日時 平成21年7月7日(火) 午後1時30分～午後3時30分
- ・開催場所 いわき市生涯学習プラザ 大会議室
- ・講演内容 「認知症を予防する生活のコツ」
講師 東京都健康長寿医療センター研究所
客員研究員 宇良 千秋 氏
- ・来場者数 約190人

※ 来場者を対象にアンケートを実施(別紙・集計結果を参照)

(2) 認知症総合パンフレットの作成・配布について

① 事業概要

認知症高齢者を支えるためには、地域住民を含めた多くの方に認知症に関する理解を深めてもらい、総合的なケア体制を構築する必要があるため、認知症予防の広報・啓発を目的に、「認知症」「高齢者虐待」「成年後見制度」等を総合的に網羅したパンフレットを作成・配布した。

② これまでの取組み

- ・パンフレット「ひとりひとりが安心して自分らしく暮らせるまちを目指して(認知症総合パンフレット)」の作成 ※別添資料参照
- ・パンフレットの配布

【配布時期】

介護の日(11月11日)にあわせ、全戸及び公的機関等へ配布した。(作成部数120,000部)

【配布先】

全戸配布(112,520部)
地区保健福祉センター(7箇所)・地域包括支援センター(7箇所)
市民サービスセンター(2箇所)・公民館(35箇所)
老人福祉センター(5箇所)

(3) 認知症予防プログラムについて

① 事業概要

高齢者が脳の働きを活性化するプログラムを実施し、自ら認知症予防の活動に取り組むことを目指し、65歳以上の方6～8名のグループで、支援者（認知症予防ファシリテーター）より脳の認知機能を鍛え、認知症の発症遅延に有効なプログラムを週1回実施する。

② これまでの取り組み

7地区保健福祉センターごとに1グループを立ち上げることを目標とし、平成21年度で目標を達成した。

【グループ数の推移】

平成18年度	1グループ（常磐地区）
平成19年度	2グループ（平・内郷地区）
平成20年度	3グループ（勿来・内郷・四倉地区）
平成21年度	3グループ（小名浜・小川地区）
（合計）	9グループ

(4) 認知症予防ファシリテーターについて

① 事業概要

地域の中で認知症予防（認知症予防プログラム）に取り組むグループが自主的に活動を推進していけるよう支援することを目指し、認知症予防の取り組みに関わる人材「認知症ファシリテーター」の育成・確保を行う。

② これまでの取り組み

【養成人数】

平成18年度	7人
平成19年度	21人
平成20年度	5人
平成21年度	5人
（合計）	38人

(5) 認知症サポーター養成講座について

① 事業概要

地域住民が認知症についての正しい知識を学び、身近にいる認知症の人やその家族の良き理解者となる認知症サポーターを養成する。

② これまでの取り組み

県の基準値に基づき、平成21年度までの目標養成人数を2,720人

に設定し、サポーター養成のための講座を開催してきた。

【養成人数】

平成18年度	275人
平成19年度	750人
平成20年度	984人
平成21年度	503人（平成21年10月31日現在）
（合計）	2,512人

(6) 認知症に関する健康教育・健康相談について

① 事業概要

- ・各地区保健福祉センター保健係の保健師が実施している健康教育・健康相談の中で、介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業を実施している。
- ・介護予防普及啓発事業は、広く正しい知識の普及啓発を図るために、医師や保健師による講演会・相談会等を行うもの。
- ・地域介護予防活動支援事業は、ボランティアとして活動する意思を有する市民を対象として開催する研修会や、地域活動組織に対する育成・支援を行う。（認知症予防ファシリテーター養成に関する研修や、認知症予防プログラムの支援。）

② これまでの取組み

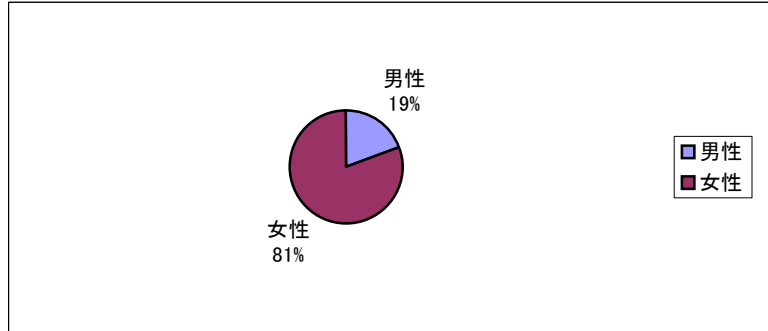
- ・介護予防普及啓発事業（平成21年度実績）
 - 講演会等 12回（参加延人数：404人）
 - 相談会等 2回（参加延人数：33人）
- ・地域介護予防活動支援事業（平成21年度実績）
 - ボランティア育成のための研修会等 5回（参加延人数：52人）
 - 地域活動組織への支援・協力等 46回（参加延人数：275人）

アンケート結果集計

認知症予防講演会来場者190人のうち、139人から寄せられたアンケート意見の結果集計。

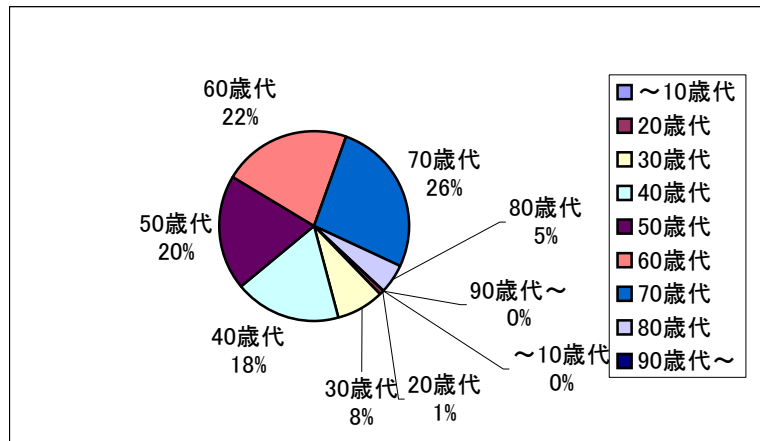
Q1 あなたの性別をお答えください。(該当番号に○)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 27人 |
| 2 女性 | 112人 |



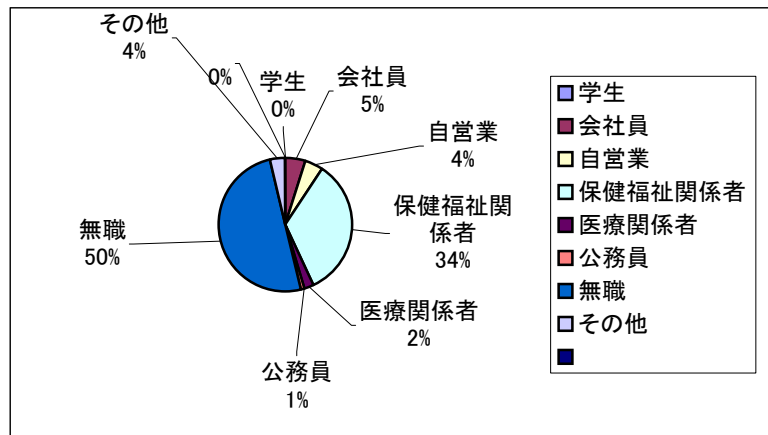
Q2 あなたの年代をお答えください。(該当番号に○)

- | | |
|---------|-----|
| 1 ~10歳代 | 0人 |
| 2 20歳代 | 1人 |
| 3 30歳代 | 11人 |
| 4 40歳代 | 25人 |
| 5 50歳代 | 27人 |
| 6 60歳代 | 30人 |
| 7 70歳代 | 36人 |
| 8 80歳代 | 7人 |
| 9 90歳代~ | 0人 |



Q3 あなたの職業をお答えください。(該当番号に○)

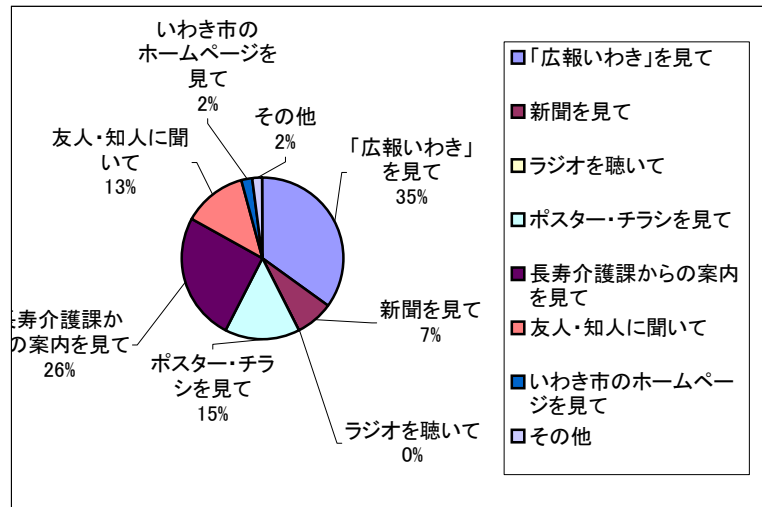
- | | |
|-----------|-----|
| 1 学生 | 0人 |
| 2 会社員 | 7人 |
| 3 自営業 | 6人 |
| 4 保健福祉関係者 | 47人 |
| 5 医療関係者 | 3人 |
| 6 公務員 | 1人 |
| 7 無職 | 70人 |
| 8 その他 | 5人 |



Q4

認知症予防講演会をどちらでお知りになりましたか？（該当番号に○ 複数可）

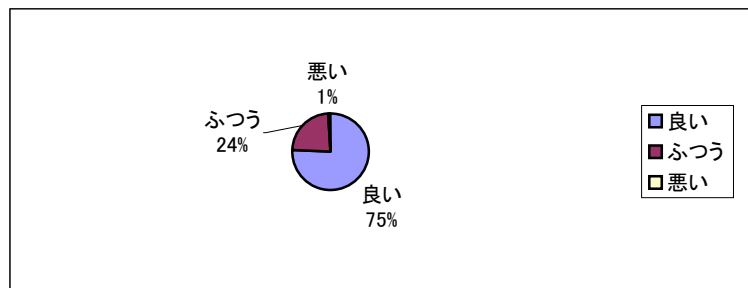
1 「広報いわき」を見て	52件
2 新聞を見て	11件
3 ラジオを聴いて	0件
4 ポスター・チラシを見て	22件
5 長寿介護課からの案内を見て	38件
6 友人・知人に聞いて	19件
7 いわき市のホームページを見て	3件
8 その他	3件



Q5

認知症予防講演会をお聞きになったご感想・ご意見をお聞かせください。（該当番号に○・記入）

1 良い	99人
2 ふつう	31人
3 悪い	1人



4 その他(自由意見)

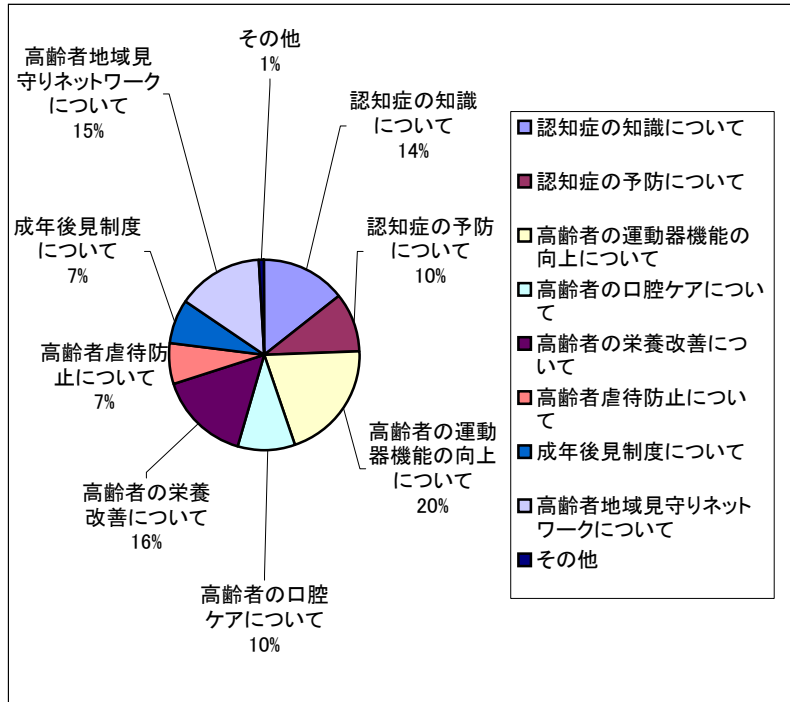
- ・これから自分にかかわることなので、本当に気をつけて食生活・ウォーキングをやらなければならないと思った(60歳代・女性・会社員)
- ・わかりやすかった(70歳代・女性・無職)
- ・休憩時間を入れてほしい(60歳代・男性・無職)
- ・新聞・雑誌でもっと詳しく書いてある。何でもかんでも認知症に結びつけるのは良くない。毎日魚を食べている人が認知症になっている(50歳代・女性・会社員)
- ・これからの自分に役立てようと思った(60歳代・女性・無職)
- ・後ろの席でパネルの一部が欠けて見えにくい。声がとび、強弱によって聞きにくい部分があった(70歳代・女性・無職)
- ・遅れてきた人は中に入れなくてほしい。スライドの内容は全て資料にしてほしい(50歳代・女性・会社員)
- ・生活を送る上で、特別なことをしなくても、ちょっとした工夫で認知症予防につながることを学んだ(30歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・高齢者が多かったようなので、休憩があったほうがよいのではないかと(30歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・認知症にならないためにもこのような講座に出席したいと思う(60歳代・女性・無職)
- ・予防策が具体的で大変参考になった(60歳代・男性・無職)
- ・良い話をわかりやすく話している。休憩がほしかった(60歳代・女性・無職)

- ・とても有意義だった。これからももっと回数を多く講演会を実施してほしい(60歳代・女性・無職)
- ・今後の仕事に役立てたい。とても良かった(40歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・今後も高齢者の健康講座等を実施してもらいたい(70歳代・男性・無職)
- ・有酸素運動と栄養摂取の大切さを痛感した(60歳代・男性・無職)
- ・会場がせまい。時間が長い(30歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・冷房が強いため集中して聞くことができなかった(60歳代・女性・無職)
- ・現実的に身近な話題でわかりやすかった(30歳代・女性・医療関係者)
- ・講演を聞いて実践していこうと思った。クイズでわかりやすい説明で、今後、自分の親が認知症の初期段階なので、参考になって良かった(50歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・今回の認知症の話はとても生活に役立つと思う。ありがとうございました(60歳代・女性・無職)
- ・大変わかりやすい講義だった(50歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・大変参考になった。ありがとうございました(80歳代・女性・無職)
- ・長く続けるコツまで指導され、実行できる予防プログラムを学べた(50歳代・男性・会社員)
- ・資料を使ってわかりやすいお話だった。事例が多く参考になった(70歳代・女性・無職)
- ・テレビや他の講演会で見聞したが、今日の講演は実際の経験や統計をもとに説明していて今後の自分の生活に参考として取り入れていきたいと思った(70歳代・女性・無職)
- ・自分の認知度の目安にしたいと思った(60歳代・女性・無職)
- ・趣味を持つことが大事、ウォーキングの毎日記録すること、がわかり良かった(60歳代・女性・無職)
- ・長年認知症の家族を見てきた。今日のお話は本当に良かった(70歳代・女性・自営業)
- ・ウォーキングをやってみようと思った。大変勉強になった。ありがとうございました(60歳代・女性・無職)
- ・身近なことが話しに入りわかりやすかった(70歳代・女性・無職)
- ・非常に勉強になった(80歳代・男性・その他)
- ・毎日の生活がどんな生活だか考えさせられた。食生活・行動・仕事がいつもベストにできるように長く続けたいと思う(70歳代・女性・自営業)
- ・いろいろためになった(50歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・勉強になった。死ぬまでボケずに生きたいと思った(70歳代・女性・無職)
- ・良い参考になった。ありがとうございました(80歳代・女性・無職)
- ・とても良かった。再度資料を見て活かそうと思う。ありがとうございました(60歳代・男性・会社員)
- ・本日は貴重な時間ありがとうございました。すごく認知症予防についての講習を聞け勉強になった(40歳代・女性・医療機関関係者)
- ・大変参考になった(60歳代・女性・無職)

Q6

今後、講演会で取り上げてほしいテーマをお答えください。(該当番号に○・記入 複数可)

- 1 認知症の知識について 33件
- 2 認知症の予防について 23件
- 3 高齢者の運動器機能の向上について 47件
- 4 高齢者の口腔ケアについて 22件
- 5 高齢者の栄養改善について 36件
- 6 高齢者虐待防止について 16件
- 7 成年後見制度について 17件
- 8 高齢者地域見守りネットワークについて 34件
- 9 その他 2件



(自由意見)

- ・後期高齢者医療制度の問題(60歳代・男性・無職)
- ・高齢者への介護予防対策として実施されている活動を一般向けにわかりやすく紹介してもらいたい(30歳代・女性・医療関係者)
- ・高齢者でもボランティアなど地域に必要な人になる、イベントがあるといいと思う(50歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・認知症介護の実際(ケアの方法等)(50歳代・女性・保健福祉関係者)
- ・高齢者の入居施設について(養老等)(80歳代・男性・その他)
- ・認知症の介護の方法について(40歳代・女性・医療関係者)

3 高齢者権利擁護対策の推進について

(いわき市成年後見制度利用支援ネットワーク運営協議会について)

(1) 事業概要

障がい・認知症等で判断能力が不十分となった人たちにとって、適切なサポートを受けながら、住みなれた地域で安心した生活を送っていく上で、成年後見制度の利用は、より重要性を増すものと考えられる。

一方で、成年後見制度に関する相談は、法律・医療・福祉分野など、複雑かつ多岐にわたることから、障がい者・高齢者の権利擁護事業に携わってきた関係団体・機関が相互に連携を図ることにより、成年後見制度の利用の支援に寄与することを目的として、「いわき市成年後見制度利用支援ネットワーク運営協議会」を設置する。

(2) これまでの取組み

① 運営協議会の設置

【委員構成（11名）】

- | | |
|------------|--|
| ・法律関係者 | 弁護士会・司法書士会・行政書士会 |
| ・医療機関関係者 | 医師会 |
| ・福祉関係者 | 社会福祉士会・介護支援専門員連絡協議会 |
| ・学識経験者 | 大学教授 |
| ・後見実施機関関係者 | 特定非営利活動法人福島成年後見サポートセンター
特定非営利活動法人そよ風ネットいわき
特定非営利活動法人地域福祉ネットワークいわき
社会福祉法人いわき市社会福祉協議会 |

② 第1回運営協議会の開催

- ・開催日時 平成21年10月14日（水）午後2時～午後3時30分
※福島家庭裁判所いわき支部より2名がオブザーバーとして参加

【協議内容】

- ・協議会議長にいわき明星大学教授鎌田真理子氏を選任
- ・これまでの市の取り組みや相談・市長申立制度等利用状況について説明するとともに、各機関の活動状況について意見交換と今後の検討事項について協議を行い、
ア 成年後見制度に関する情報交換や制度の普及・啓発について

イ 成年後見に係る利用支援について
その推進や、支援方策について検討することとした。

(3) 今後の取組み

- ・平成 22 年度以降については、年 2 回程度の開催を予定している。
- ・成年後見制度の円滑な実施に向け、関係機関・団体の相互の情報交換や、相談・手続等の支援を行うための連携の仕組みづくりを進め、制度の利用促進を図る。
- ・成年後見制度の一層の利用促進を図るためには、利用のための適切な支援や、制度に関わる各機関の専門能力をより効率的に発揮する必要があることから、今後の相談・申請件数の推移等を見極めながら、専門機関の設置について検討していく。